

2025 年春季参加報告書

参加プログラム：SMEAG

参加時の学年：1 年 学部：国際教養 学科：国際教養学科グローバルスタディーズ専攻

私は主に IELTS のスコア向上のためにフィリピン・セブ島の SMEAG にて 1 か月間の外国語現地実習に参加しました。達成するために、大人数クラスの授業時には日本人以外の人に一日に一回は話しかけるということや、4 技能のクラスの内特に英語で話す機会が多いスピーキング担当の先生と仲良くなれるくらい英語で話し、自分に自信を持って話せるようになることを目標として立てました。

私が SMEAG を実習先を選んだ理由は、平日は毎日朝早くから夜遅くまで試験対策ができる環境が十分整っているということを知ったからです。実際 SMEAG では、朝は 7 時前からスパルタクラスという主にリーディング対策の実践クラスが始まり、夜は 8 時半ごろまで授業があるカリキュラムが組まれていました。最初の 1 週間は勉強漬けのスケジュールに慣れることができず、さらに生活環境の違いにも戸惑い、「本当に英語力を向上させることができるのか」「衛生環境が日本と異なる中で 1 か月間やっていけるのか」と不安を感じるが多かったです。しかし、毎日の授業は刺激的で、現地の先生方の明るさやエネルギーな指導のおかげで徐々に環境に適応できました。特に、私のスピーキングを担当してくれた先生、リスニングを担当してくれた先生との会話は印象的でした。授業中や休み時間には、フィリピンの教育問題や政治問題など、日常的な話題から深い社会的な話題まで幅広く先生と会話を交わしました。これによって現地実習を通して、語学力の向上だけでなく、海外で生活し学ぶことの意義を実感しました。また、単に英語力を向上させるだけではなく、他国の文化や歴史的背景に関心を持ち、理解しようとする姿勢がなければ、多様な国籍の人々と深い会話をすることは難しいと感じました。他にも私は特にライティングとスピーキングの授業に力を入れて取り組みました。これら 2 つの技能は最も苦手で、現地では着いて最初に受けた確認テストでは、最も低いスコアをとってしまいました。なので、どちらの授業でも少しでも疑問があれば先生に質問や確認を行ったり、ライティングは毎日タスク 1 か 2 の英作文を書いて添削してもらい、スピーキングでは、試験中に役立つ Cohesive Devices や Phrases をメモして、普段の授業中に意識して使うようにしていました。スピーキングに関しては自習方法が難しかったのですが、頻出のトピックに関連する単語を調べたり、質問に対しての回答例を考えたりと、授業中にたくさん話す代わり、自習の際は話す前段階の準備に時間をかけていました。また、自分で考えたトピックと問題に対しての答えを、録音して自分で聞きなおしてみるなどスピーキングは色々試行錯誤しながら勉強していました。結果的に、毎週の模擬テストでスコアを上げて、最終週のテストでは、すべての技能で自分の納得いくスコアを獲得することができました。この短期留学を通じて、勉強に対する意識が大きく変わったと感じます。

SMEAG で IELTS 対策をしていた人の多くは学生ではなく、社会人でした。中には夢を追いかけるために仕事を辞めて留学している人もおり、そうした環境で学ぶことで、学ぶことの本当の意味を実感しました。また、日本以外の国の人々と話す中で、他国の文化や社会に対する興味も強くなりました。今回の留学で得た経験を一過性のものにせず、今後も異文化に触れる機会を増やしたいと考えています。そのためには、英語を話す機会を意識的に作る事が重要です。帰国後も英語を話す時間を確保し、英語を使うコミュニティに積極的に参加していきたいです。また、大学の講義にもより真剣に取り組み、授業中のディスカッションなどで英語を活用する機会を増やしていきます。こうした取り組みを通じて、留学で得た成果をさらに伸ばし、将来的には長期留学や海外での学びにも挑戦したいと考えています。

